

京都

伊光堂

仏壇・仏具の専門店

下京区寺町通仏光寺下ル
(四条寺町 南へ200m 西側)

☎351-4092

京都総局
〒604-8101
中京区御池通
柳馬場角
☎ 075(211)335
fax (211)833
mail:kyoto@asahi.com

学研都市支局
☎ 0774(63)388
fax (63)385

舞鶴支局
☎ 0773(76)555
fax (78)905

購読のお申し込み
配達お問い合わせ

0120-33-0843

相模原殺傷事件 障害者や元職員 考えるシンポ

「生きた証を残したい」と話す西角純志さん(南區)



相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者ら46人が殺傷された事件について考えるシンポジウム「相模原障害者殺傷事件」が18日、南區の京都テルサで開かれた。脳性まひなどの障害がある人や家族ら約150人が参加し、同園の元職員や、障害

者施設の運営者らの話に耳を傾けた。元職員で専修大講師の西角純志さん(51)は「被害者たちは警察の発表で匿名にされ、社会からも忘れ去られようとしている。彼らの生きた証を残したい」と話す。現役職員などへの聞き取りを重ね、被害者たちの人柄や園での生活の様子

などをまとめている。西角さんは2001〜05年に同園で働き、亡くなった19人のうち7人の男性の介助などを担当していた。「演歌が好きだった」「興奮すると跳びはねる人だった」などと思い出を語り、「事件を風化させないためにも、当事者を知っている者として伝えていきたい」と話した。

シンポジウム実行委員の一人で、脳性まひの障害がある金順喜さん(55)は「事件後、車いすを外に出たら危害を加えられるんじゃないかとか、いろんな思いがあった。私たちは生きていくんだと、存在を認めてほしい」と話した。